

〔太平記三〕主上御没落笠置事

萬卒守禦ノ密シキニ、御心ヲ被惱、時移事去樂盡テ悲來天上ノ五衰、人間一炊唯夢。カトノミゾ覺タル、

〔藻鹽草十人夢〕

巫山神女夢にみえて、朝には雲となり、夕には雨となると云り、○中略

こてふの花にたはふれて、百年なすきたるとみたる由侍る也、

〔書言字考節用集九胡蝶夢〕

據莊子故事、見齊物論

〔源氏物語三十五〕たゞあけにあけゆくに、いと心あはたゞしくて、あはれなる夢がたりもきこえさすべきを、○下

〔源氏物語三十七〕

横笛

さていましづかに、かの夢は思ひあはせてなん聞ゆべき夜、かたらすと、か、女房のつたへに、いふことなりとのたまひて、おさく御いらへもなければ、○下

〔源氏物語三十五〕

若菜

たゞいさ、かまどろむとしもなき夢に、このてならし、ねこのいとらうたげにうちなききたるを、此宮に奉らんとてわがゐてきたると覺えしを、なにしに奉りつらんと

思ふ程に、おどろきて、いかにみえつるならんとおもふ、宮三宮女はいとあさましくうつ、共おぼえ給はぬに、むねふたがりて、おぼしおほる、を、○下

〔源氏物語湖月抄三十五〕

若菜

此手ならし、ねこの

細 懷妊の事也、夢獸懷胎之相抄

〔梅園日記四〕夢五臟のわづらひ

今按ずるに、素問方盛に肺氣虛、則使人夢見白物、腎氣虛、則使人夢見舟船溺人、肝氣虛、則夢飲食不足、此皆五臟氣虛、陽氣有餘、陰氣不足云々と、これによりたる諺なるべし、